

令和 2 年 5 月
釧路海上保安部

厚岸町大黒島における厚岸灯台の巡回

令和 2 年 5 月 21 日、釧路海上保安部は、道東の厚岸湾に浮かぶ無人島、大黒島にある厚岸灯台の巡回を行いました。

厚岸灯台は、釧路海上保安部が管理・保守を行っている航路標識で、明治 23 年 11 月 25 日に設置された沿岸灯台であり、釧路管内で設置が最も古い灯台となります。

灯台の敷地面積は 12 万平方 m で、全島面積の 1 割以上を占めており、日本の灯台の中では最も広い敷地面積となっています。

灯台の建物は昭和 12 年に木造からコンクリート造へ改築され、昭和 57 年まで職員が常駐していましたが、以降は無人となり、現在は、年 1 回の定期的な巡回保守を行っています。



この灯台が所在する北海道厚岸町の大黒島は、北海道厚岸町が管理する無人島で、コシジロウミツバメなどの海鳥が生息する国指定の鳥獣保護区となっています。

大黒島へは、床潭漁港から用船を仕立て出発し 15 分程航行して島の北側の海岸から上陸します。過去は、島の南側にあった船着き場から上陸しておりましたが、経年で船着き場の一部が壊れ現在は使用できないことから、北側の海岸から上陸します。この海岸においても、風浪があれば上陸はできないため、気象条件が良い時に限られます。



上陸後は、南側にある灯台へ向かいますが、そのルートには約 100m程の高低差があり、草木の生い茂る険しい山道を片道約 1 時間かけて歩きます。

釧路海上保安部長は、この巡回に同行し、巡回ルートにおける危険箇所などの確認や灯台施設の現状確認を行いました。



大黒島の上陸場所です



海岸から島の高所へ上ります



南側の灯台へ尾根に沿って移動します



灯台までもう少しです



灯台に到着しました



発電の元となる太陽電池パネルを清掃します



灯台の光源であるLED灯器を点検します



ハリ板（ガラス窓）を清掃します